



# 海と日本 PROJECT

## 海洋都市横浜うみ博 2019

～見て、触れて、感じる 海と日本 PROJECT～

2019年7月20日(土)・21日(日)開催

御報告資料

海洋都市横浜うみ協議会

(事務局：横浜市政策局政策課)

## 1 開催概要

- 日時：令和元年 7月 20日(土)・21日(日) 10:00～17:00  
会場：大さん橋ホール(横浜港大さん橋客船ターミナル内)  
主催：海洋都市横浜うみ協議会(海洋分野の企業・研究機関・大学等(33 団体)で構成)  
内容：船の見学や、海の生物・環境等を学べるブース展示、ワークショップなどの体験型のイベント  
参加者数：約 23,000 人(20(土)約 10,000 人、21(日)約 13,000 人)  
(第 1 回：約 12,000 人(2 日間)、第 2 回：約 21,000 人(2 日間)、第 3 回約 23,000 人(2 日間))

※1 日目の午前中は小雨が降るなどの悪天候により客足の鈍さを感じられましたが、午後からは天候も回復し、盛況となりました。2 日目は開場前から行列ができ、終日人が途切れることがなく満員状態でした。  
来場者数 13,000 人/日は 1 日あたりとしては過去最大で、大盛況で終えることができました。

## 2 記録・当日の様子

### 【今回のポイント】

- ・今年では SDGs(持続可能な開発目標)、特にゴール 14「海の豊かさを守ろう」をテーマとし、会場全体で「プラスチックごみによる海洋汚染」の啓発などに力を入れて取り組みました。
- ・市内小学校による、海の環境問題などについて学んだ成果の展示など、教育現場との連携を深めました。
- ・イベントの認知度や集客力、普段見ることのできない「実物」のコンテンツ等で、「楽しいイベント」として子どもたちを惹きつけながら、「海を大切にしたい」「プラごみから海や生き物を守りたい」などの想いを抱いてもらえるような工夫を凝らしました。

### (1) 会場の様子



←メイン会場のエントランス



ホール内は連日満員状態の大盛況  
リピーターも多いことも伺えた



巨大な自動車専用船も今年も登場。  
着岸する光景も迫力満点



今年のうみ博のテーマは SDGs  
「教育」「学び」につなげたい  
(特記・SDGs の取組(→P7, 8))



### 「うみありがとう」

子どもたちからのメッセージ  
(横浜の海への想いを込める、  
ジオラマワークショップ(→P8))



「海洋プラ問題」を啓発するムービー。  
子どもたちの関心の高さが感じられた。



「自由研究で「環境」「海洋プラごみ」  
を調べる」という子どもも多かった

**(2) 船の見学会・実機展示(屋外特設展示場)**

**①国土交通省関東地方整備局：清掃船兼油回収船「べいくりん」(20日(土)申込不要)**



東京湾を清掃する特殊な船「べいくりん」。海の環境保全を呼びかける



特殊な機器や、実際に回収したごみを展示し、海洋汚染の現状を伝える



操舵室。普段は入れない「ホンモノ」に触れられるのは「うみ博」ならではの

**②日本郵船(株)：自動車専用船見学(21日(日) 定員 1,000名(申込者 7,964名))**



7,000台の自動車を積載可能。ランプウェイを歩いて巨大な船内へ入場



今回は屋上広場で現役航海士が船や海運の世界を解説し大好評



船内には船の模型やパネルがギッシリと並ぶ。年々充実し博物館のよう



職人芸の自動車積み付けデモンストレーションに、見学者は大興奮



技術者によるエンジンの仕組み解説など、船の世界の魅力が満載



見学後は冷凍コンテナで涼める展示も。海運業ならではの暑さ対策

**③(株)新日本海洋社：タグボート乗船(21日(日)定員 60名(申込者 1,861名))**



毎年大人気のタグボート乗船、湾内遊覧。今年は2隻を稼働頂き定員を倍増



約30倍の高倍率の中、当選した皆様。横浜港を航行し、船の世界を満喫



LNGを燃料に使用したタグボート。船内で環境について学ぶ

#### ④実機展示(屋外特設展示場)

(津波救命艇(関東運輸局)、水中作業ロボットディープ・クローラー(東亜建設工業株)、水素自動車(横浜市港湾局))



海ではたらく「ホンモノ」の実機展示。今年屋外に特設展示場を設置



関東運輸局が展示する津波救命艇。巨大なボディがひととき目を引く



興味津々で内部を見学。非日常を楽しみつつ、災害について学ぶ機会となった



水深 3,000m で作業可能な、東亜建設工業のディープ・クローラーが登場



和服のお客様。うみ博来場者にとどまらず、往来の方々も足を止める



ディープ・クローラーの電源は、水素自動車からクリーンエネルギーを供給

#### (3) 展示ブース (21 団体)



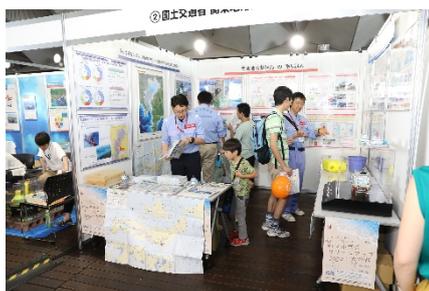
「海」をテーマに様々な分野の工夫を凝らしたブースが満載



今年はパネルの装飾もより華やかに



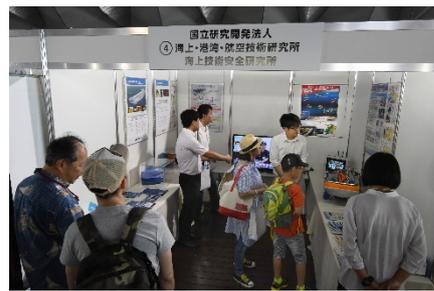
①東亜建設工業  
水中ロボットでのビー玉すくいが人気



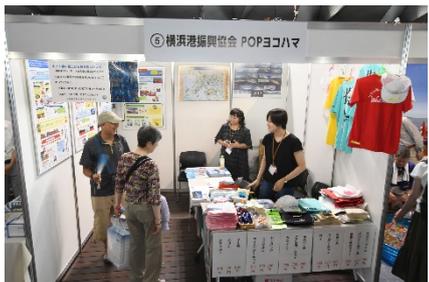
②国土交通省関東地方整備局  
船や港、海の世界などについて学ぶ



③横浜港埠頭  
例年人気のうちわづくりと港の学習



④海上技術安全研究所  
船の構造や技術を専門家が解説



⑤横浜港振興協会 (POP ヨコハマ)  
オリジナルグッズで横浜港の魅力発信



⑥五洋建設  
東京湾の生き物展示や VR 体験



⑦関東運輸局  
海・船を学ぶ展示と人気の缶バッジづくり



⑧海技教育機構  
憧れの船員の制服で記念撮影



⑨ほけん見直し本舗  
お魚釣りゲームを楽しむ子どもたち



⑩横浜市  
今年はマイクロプラスチック問題にフォーカス



⑪横浜市立大学  
「ムギ」と「海」がつながる地ビール



⑫古河電気工業  
波の力で発電する仕組みを楽しく学ぶ



⑬東京海洋大学  
海の世界の研究について展示・解説



⑭オーシャンスパイラル  
夢の「海中旅行計画」も実現間近



⑮IHI / ジャパンマリユナイテッド  
船が水に浮かぶ仕組みに興味津々



⑯帆船日本丸・横浜みなと博物館  
日本丸修繕の映像や船内VR体験



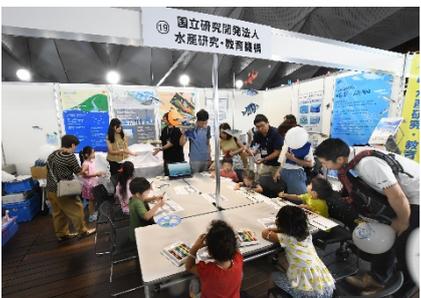
⑰三菱みなとみらい技術館(三菱重工業)  
デジタル地球儀で気候や海のはたらきを学ぶ



⑱神奈川大学  
白衣の学生達が水・環境をレクチャー



【特別展示】神奈川大学  
巨大な和船の模型展示と専門家の解説



⑲水産研究・教育機構  
「見て、さわって」魚・水産を楽しく学ぶ



⑳海洋研究開発機構(JAMSTEC)  
深海の温度を体験。冷たさに驚き



㉑横浜・八景島シーパラダイス  
ヒトデ、ネコザメに触れるタッチプール

(4) ワークコーナー

体験しながら様々な海の魅力を学べるワークショップ



①ディスカバーブルー

会場周辺の海水を顕微鏡で観察し、横浜の海のプランクトンについて学びながら、海の豊かさ・大切さを伝えるワークショップ

②関東運輸局

日頃気になるライフジャケットを膨らませて着用体験



③海藻おしば協会

カラフルな海藻でおしばをつくりながら、海の環境について学び、理解を深める人気のコーナー

④神奈川大学

学生による水質についての科学講座。白衣姿の学生たちが研究室のような雰囲気を楽しんでいる

(5) アートコーナー

〇海×アートをテーマに、楽しく海を表現します



①横浜美術大学

「海」をイメージした空間に、想い通りの「海」を表現していく、楽しいアートワークショップ。透明なアクリル板に魚を描くと「海に浮いているみたい」な不思議な空間に



②関東運輸局

中学生の「海の日」絵画コンクール入賞作品をエントランスに提示。絵の完成度の高さに驚きの声



「アンクルトリス」でお馴染みの柳原良平氏のイラストを利用した広報物も、イベントのPR・定着化に効果大

**(6) ステージプログラム**



**【①横浜・八景島シーパラダイス】**

毎日2回、本物のペンギンが登場するペンギンショー。  
ペンギンの生態を学ぶクイズが盛り上がる。毎回立ち見ができるほど超満員



**【②関東運輸局】**

海で働く女性の座談会「海の女子会」  
女性の活躍や仕事のやりがいを伝える。



**【③帆船日本丸を愛する男声合唱団】**

船の労働歌「シーシャンティ」を高らかに  
歌い上げる



**【④オーシャンスパイラル】**

「海中バルーン」で海中旅行を楽しむ  
ベンチャー企業の計画発表



**【⑤東亜建設工業】**

海中で活躍するロボット技術について、  
子ども向けに楽しくレクチャー



**【⑥横浜市立大学】**

「麦わらストローで明日の海を考えるワークショップ」海洋プラスチック問題について、  
学生が子どもたちに講義をした後に、麦ストローとプラストローを比べてみたり、  
プラカップでキーホルダーを作って再利用を考えたりするワークショップ



**(7) 飲食ゾーン**



福島復興支援  
「キビタン号」(物産販売)



崎陽軒(シウマイ弁当)



ロイヤルウイング(軽食)



おうちコープ(試食)



おうちコープ(試食)



ヤチヨ・JMETs 練習船カレー



キッチンカー(軽食)



キッチンカー(かき氷)

(8) 特記・SDGs に関する取組

○今回のうみ博ではSDGsをテーマとし、会場で配布するガイド一面を利用し、「SDGs全般」や、「プラスチックによる海洋汚染」問題をお知らせするとともに、各ブースやコンテンツで、同課題を随所に取り入れながら意識啓発を進めました。

また、できることから取り組めるアクションとして「プラスチック製品利用抑制」「ごみの分別、ポイ捨て防止」を呼びかけるとともに、アンケートでもこれらの意識の高まりについて質問しました。

■ エントランスで配布するガイドブックで、「SDGs全般」や「海洋プラゴミ問題」を伝えてうみ博へ案内



- SDGsと17の目標って何？
- ゴール14「海の豊かさを守ろう」  
※ごみで海が苦しんでいます
- 目標はつなげて考えよう(視野の広がり)
- うみ博で学べるSDGs(展示等の案内)
- おうちに帰ってできること(行動促進)

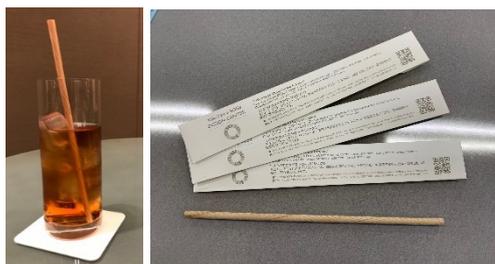
■ SDGs に関する展示例

海洋プラスチック汚染問題に関する啓発(横浜市)



昨今話題のマイクロプラスチック(実物(左)). うみ博にあわせて、横浜の野島海岸で採取。「マイクロプラスチックとは?」と合わせて(右).

海洋プラゴミ汚染・ごみ分別啓発動画の放映  
会場入ってすぐの「横浜市ブース」にて放映。  
「自由研究で「海洋プラゴミ汚染」を勉強する」という  
熱心な小学生も多く、熱心に動画へ見入っていた。



ヨコハマ・ウッドストロー・プロジェクト  
プラ抑制啓発へ。木製の「ウッドストロー」  
を配布。G20でも使用され話題となった



まずはできることから行動を。  
プラスチック使用抑制や、プラゴミのポイ捨て防止、  
ごみの適切な分別・処理を呼びかける。

【学校現場との連携】横浜市小学校・ESD 推進との連携

ESD : Education for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育)

横浜市立小学校では、ESD 推進校として、生徒たちが自ら課題を見つけ、学びを深めながら解決に向けて取り組んでいます。「うみ博 2019」では、この学習成果のうち「海」に関連するものの展示を実施。同世代の子どもたちをはじめ、多くの来場者が、熱のこもった完成度の高い成果物に足を止めていました。



小学生が自分たちで身近な海や環境などについて学んだ成果物の展示がずらり。学校の展示は今回が初めて。



小学校でもマイクロプラスチック問題に関心が集まる。



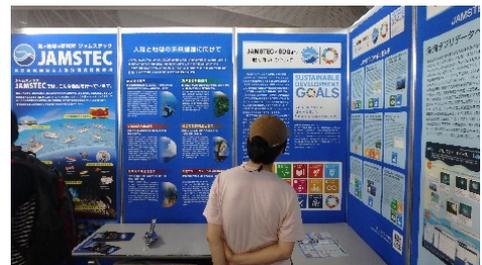
海中のカメラでライブ中継を行う「海中教室」の様子

「うみ博」ならではの SDGs

海に関する専門的な研究機関や、船など「ホンモノ」を通じて SDGs を伝えられるのは「うみ博」ならではのブース、ステージ、ワークショップ、実機展示のあらゆる場面に SDGs の要素を盛り込みました(以下は展示・取組の一部です)



東京湾を清掃する特殊船「べいくりん」 船内見学。実際に東京湾で回収したごみ(右・看板もごみ!)を展示しながら、海の環境や海洋汚染問題について啓発。



JAMSTEC ブースでは、日本を代表する海の研究機関として SDGs の取組を大々的に PR



海技教育機構ブースでは、訓練船の航海中に記録した、海のプラゴミ汚染の様子を掲示。プラゴミは消えずに残ることを訴求



水産研究・教育機構ブースでは、「持続可能な水産資源」啓発のため、網目の大きな網で魚をとるゲームで、とりすぎない漁業を伝える

横浜市立大学(協力:ヨコハマ海洋市民大学)ジオラマワークショップ「横浜の海への想いを書こう」へのメッセージ

横浜の「海」のジオラマをもとに、近隣の海の生物や環境について学び、子どもたちに「将来の海はこうあってほしい」というメッセージを書いてもらうワークショップ。

今年は、「きれいな海」「環境を守る」「プラゴミを捨てない」というメッセージが多数ありました。



海への想いを旗に書きこみプロット

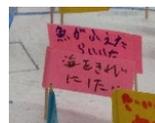


2日間でメッセージがギッシリに



←「プラスチックをへらす」

「ごみがないうみ」→



←「海をきれいにしたい」

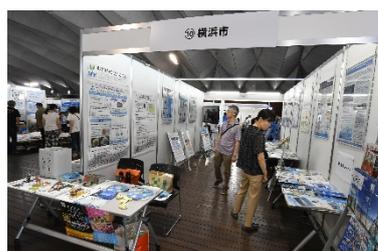
### (9) 都市連携(海洋文化都市圏の創出プロジェクト、横浜市連携都市のPR)

神奈川県・静岡県・千葉県・横浜市で、「海」をテーマに人々の対流促進を目指す、「首都圏広域地方計画・海洋文化都市圏の創出プロジェクト」による、各自治体の海の観光スポット・イベント情報の紹介や、横浜市とゆかりの深い都市のPR等を実施しました。



横浜市ブースで、様々な都市・自治体の「海」の観光イベント、施設やお出かけ情報をPR。各都市から届けられたリーフレットがずらりと並ぶ

横浜市と共同声明を発表した、スコットランドの紹介。ラグビーW杯も楽しみ



夏休み初日ということもあり、これからの夏のお出かけスポットを探す来場者も多く見られた

福島県の物産販売も売れ行き好調。

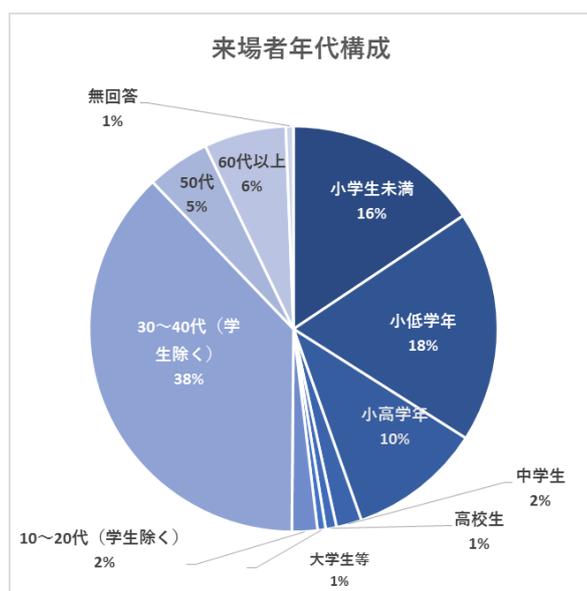
## 3 参加者アンケート

・参加者アンケートサンプル数：815(前回：340)

### ①来場者年代構成

・未就学児～小学生(46%)と 30～40 世代(38%)のファミリー層と思われる構成が 84%を占める

※大人のための来場は 30～40 代：7%、50 代：39%、60 代以上：50%と 30～40 代はほぼ子連れと推測



	2019		2018	2017
	人数	割合	割合	割合
小学生未満	364	16%	17%	15%
小学校低学年	432	19%	17%	12%
小学校高学年	247	11%	9%	7%
中学生	47	2%	1%	2%
高校生	20	1%	0%	0%
大学生・大学院生・専門校生	6	0%	1%	1%
10～20代(学生除く)	47	2%	2%	4%
30～40代(学生除く)	883	38%	41%	36%
50代	117	5%	4%	8%
60代以上	152	7%	6%	13%
無回答	14	1%	1%	2%
合計	2,329	100%	100%	100%

## ②来場の動機

- ・「イベントが楽しそうだから」が過半数
- ※海に興味を持つきっかけづくりに一定の効果

	2019		2018	2017
	回答数	割合	割合	割合
イベントが楽しそうだから	449	57%	53%	53%
海に興味があるから	173	22%	28%	27%
勉強に役立ちそうだから	78	10%	9%	7%
仕事に役立ちそうだから	12	2%	12%	2%
その他	72	9%	72%	11%
合計	784	100%	174%	100%

## ③子どもの海への関心向上

- ・イベントをきっかけに海への関心が高まったと「思う」割合が9割超

	2019		2018	2017
	回答数	割合	割合	割合
思う	754	93%	94%	85%
思わない	6	1%	1%	2%
わからない	49	6%	4%	13%
無回答	6	1%	1%	0%
合計	815	100%	100%	100%

## ④イベントを知ったきっかけ・媒体

- ・学校からの案内の増加、効果的な広報手段として定着

	2019		2018	2017
	回答数	割合	割合	割合
広報よこはま	168	19%	18%	30%
ホームページ	147	17%	17%	14%
学校からの案内	304	35%	21%	12%
駅・区役所での案内(チラシ)	46	5%	23%	11%
ポスター	46	5%	5%	7%
新聞	17	2%	3%	4%
テレビ・ラジオ	2	0%	1%	5%
SNS	17	2%	2%	3%
通りがかり	57	7%	3%	7%
その他	69	8%	7%	7%
合計	873	100%	100%	100%

## ⑤次回来場意向

- ・次回開催されたら「また来たい」の割合が昨年に引き続き9割超

	2019		2018	2017
	回答数	割合	割合	割合
また来たい	744	92%	94%	89%
来ない	2	0%	1%	1%
わからない	63	8%	5%	10%
合計	809	100%	100%	100%

## ⑥【新】環境問題への興味・関心の向上効果

- ・「関心が高まった」が9割超

Q 海の環境問題への関心が高まったと思いますか？

思う：732(90%)

思わない：8(1%) わからない：67(9%)

## ⑦【新】SDGs への取組意向

- ・「プラゴミ分別などできることから取り組みたい」が9割超

Q SDGs の実現を目指して、プラゴミ分別などできることから取り組みたいと思いましたか？

思う：739(93%)

思わない：1(0%) わからない：60(7%)

※具体的に取り組んでみたい事(自由記入)

ごみの分別、海のごみ拾い(ビーチクリーンへの参加)、ストローを使わない、ビニール袋やペットボトルの使用を控える、子どもに伝えていく、釣り糸を持ち帰る など

## 【自由記載意見(抜粋)】

- ・色々なブースに参加させてもらって子供が質問していたのですが、皆さんが優しく対応してくださり嬉しかったです。子供も楽しそうで満足しているようでした。ありがとうございました
- ・子供が興味を持ったり楽しんできてよかったです。大人にとっては学びの機会であった。
- ・マイクロプラスチックについてよく分かりました。道などにゴミがおちていたらひろって近くのゴミ箱などに入りたいです。ヒトデやサメなどもさわられて楽しかったです。
- ・子どもがとても楽しんでいて良かった。自由研究のいいテーマになりそう！
- ・今回、うみ博参加3回目です。今日もとても楽しかったです。 ・だれでもきがるにこれで楽しいと思いました。
- ・自動車船見学、毎年外れてかなしいです…でもまた来ます ・すごく楽しく海のことを知れた。また来たい

## 4 広報・パブリシティ実績

### (1) 広報・PR 実施実績

○横浜市プレスリリース(5/31)

※このほか、協議会会員団体よりプレスリリース実施

- ・日本郵船(株)(5/31) ・国土交通省関東地方整備局(6/26) ・(株)オーシャンスパイラル(7/4)
- ・海上・港湾・航空技術研究所(海上技術安全研究所)(7/5) ・海技教育機構(7/8) ・国土交通省関東運輸局(7/16) ほか

○横浜市広報紙「広報よこはま」(各号・約160万世帯配布(月刊))

- ・6月号(6/1)、7月号(7/1)で告知(合計約320万部へ掲載)

○リーフレット(約17万部)、ポスター(約800部)での告知

- ・横浜市内小学校・中学校・特別支援学校(計約500校)へリーフレット・ポスター配布  
(リーフレット:小1~2及び特別支援学校は全員分、小3~中3はクラスに10部)  
(ポスター:全校で校舎内にポスター掲出)
- ・鉄道駅、市役所・区役所等に配架

○特設HP、ツイッター、フェイスブック使用 ※事務局ツイッターの他、**横浜市公式ツイッターも使用**

### (2) メディア掲載実績

#### 【新聞】計7回

- ・記事: 神奈川新聞4回、日本海事新聞×1回
- ・新聞広告: 神奈川新聞全5段広告×3回

#### 【ラジオ】計3回

- ・ニッポン放送: 垣花正 あなたとハッピー
- ・FM Yokohama: Yokohama My Choice!
- ・FM Yokohama: Kanagawa Muffin

#### 【フリーペーパー】計5回

- ・ヨコハマよみうり(湘南よみうり新聞社)
- ・タウンニュース(中区・西区)
- ・Living 横浜(フジサンケイリビング)
- ・広報よこはま6月号、7月号

#### 【Webメディア】 2019年8月時点: 37件

- ・yahoo ニュース×5回、読売新聞教育ネットワーク、乗り物ニュースほか



新聞を通じた子どもたちの社会教育を目指す、読売新聞・教育ネットワーク(Webメディア)では、高倍率だった「タグボート乗船会」の体験動画をはじめ、「うみ博2019」の魅力がぎゅっと詰まった記事を掲載頂いています。

<https://kyoiku.yomiuri.co.jp/kigyoo/contents/2019-525.php>

↓神奈川新聞全5段広告を3回にわたり掲出

